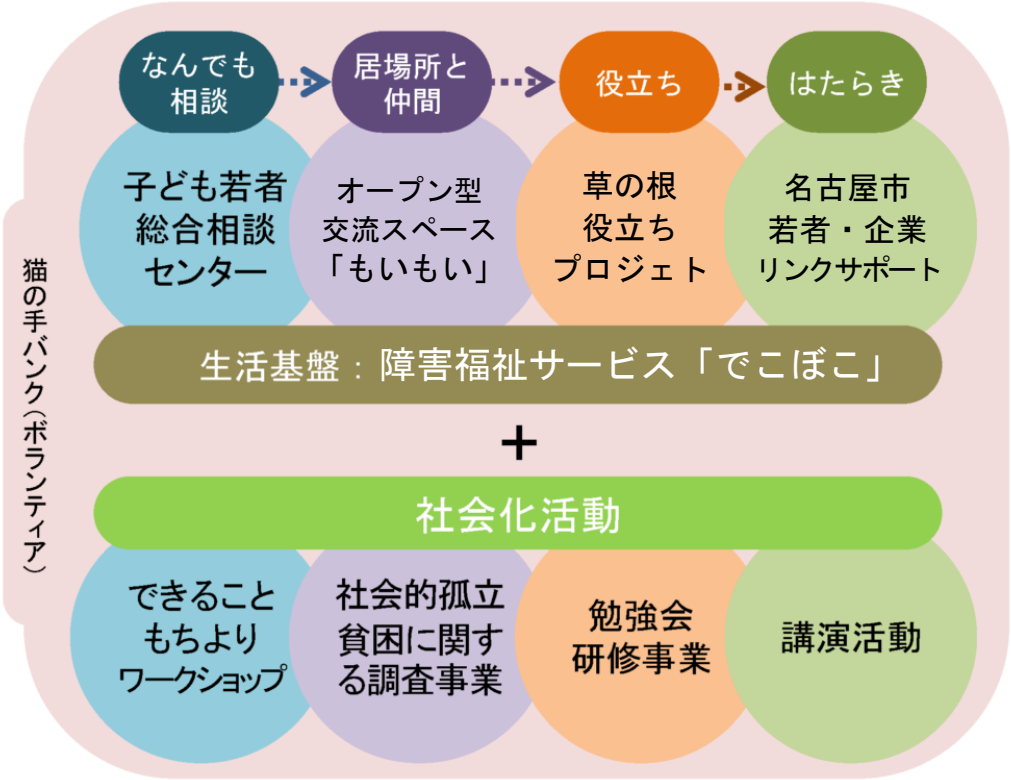
令和３年度 事業報告　令和３年５月～令和４年４月

『誰もがありのままを認められる暮らしの中で、ひとりひとりの
小さな一歩を大切にしあえるやさしい社会にしたい』

という理念のもと、制度や支援の手が届かずに社会的孤立や貧困に苦しんでいる方の支援を「仕方がない」とあきらめるのではなく、すべての方が安心して居られる場所・活躍できる場所を見出せる社会となることを目指し、次頁以降１～６の事業を行った。

＜草の根ささえあいプロジェクトの事業＞



INDEX

１　調査・研究事業 2
２　相談・支援事業 5
３　生活支援事業 11
４　就労支援事業 13
５　地域コミュニティ事業・ネットワーク創出事業..... 15
６　普及・社会活動事業..... 17

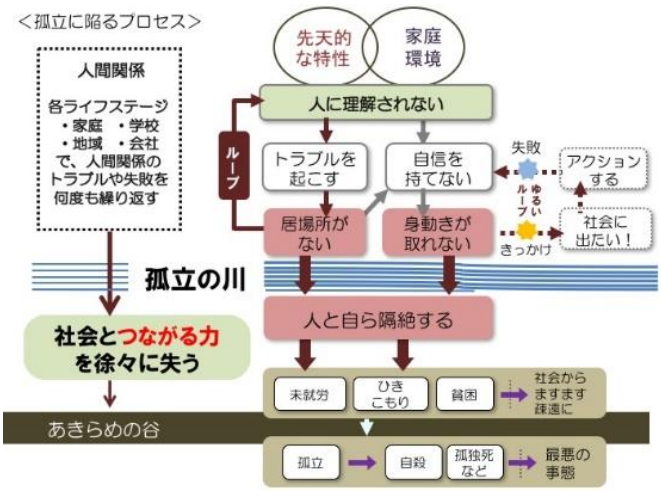
1　調査･研究事業

ｉ）社会的孤立に関する研究調査

本年は当法人が行ってきた社会的孤立に関する調査事業や、ロジックモデル研究などが、外部の協力を得て統合され始めた１年であった。

A)　孤立の川の AI 分析

2011 年に発表した「孤立の川」モデルを、実際の支援事例の経過を、AI を使用して解析を行い、汎用性の高めて行く研究を開始した。



B)　草の根ロジックモデル研究会

一昨年から進めているロジックモデルの研究（支援過程の分析）の参加スタッフを 10 名に増やして、各スタッフが行っている支援の過程でポイントになる部分の抽出・分析・評価（再評価を含む）を行った。得られたデータは A)孤立の川の AI 分析の学習データとして活用されている。

C)　社会資源 MAP の刷新

本年は、社会資源 MAP を大幅に更新した。前回の作成時から職員も関係機関も増えたため、その数はを軽く 600 を超えるものとなった。また、これまで考慮されていなかった「社会資源のキーパーソンとの親密度」を評価に加えたことで、実用度の高いものとなった。

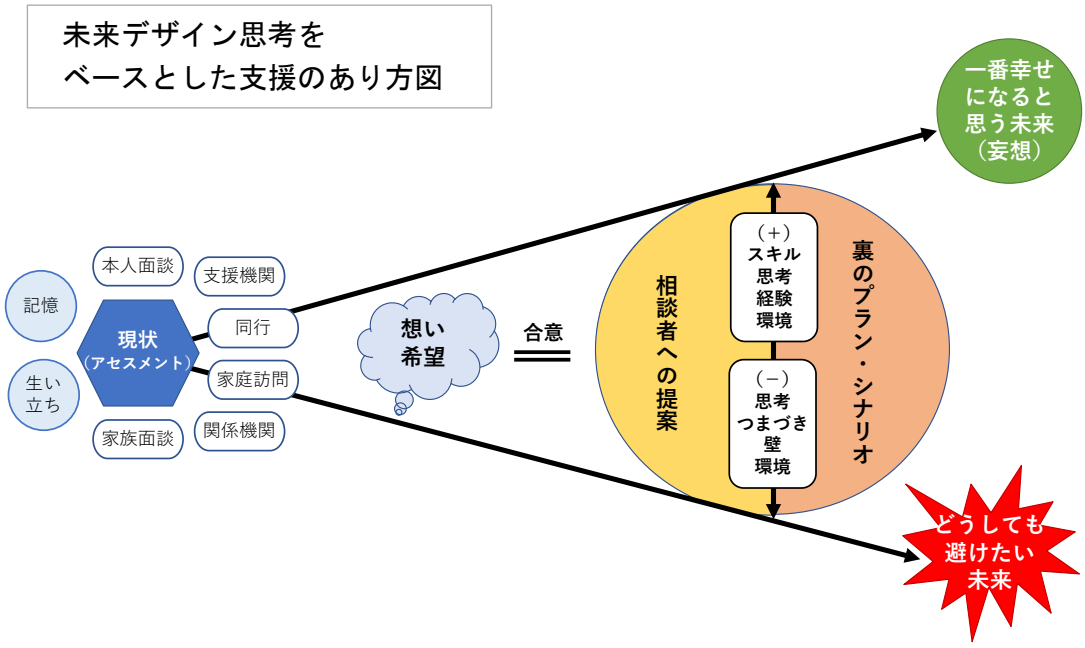
社会資源 MAP については、 ①実支援で活用する資料の１面、②社会資源 MAP を作成することをワークショップ化する１面があるが、ここでは「①実支援で活用する資料」として評価を得ており、今後大きく展開が予定されている。

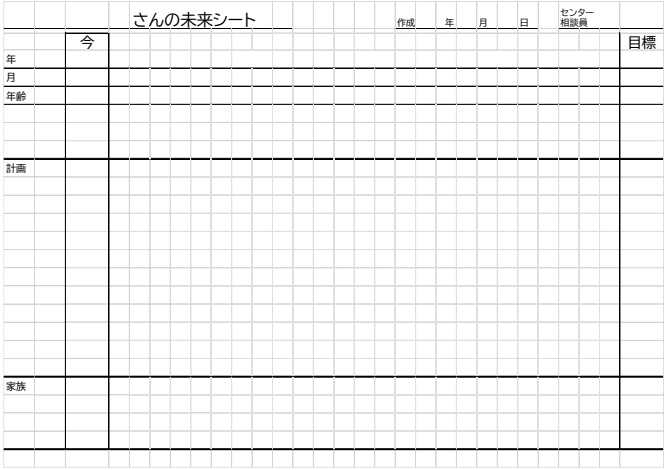
なお、これらの調査・研究にあたっては、以下の機関・法人との協力がなくては進められないものであった。ここに感謝の意を表する。
RISTEX、日本ファンドレイジング協会、京都大学、東京工業大学、慶応大学、起業支援ネット

ⅱ）未来予想図研究会

名古屋市子ども・若者総合相談センターに来所する多様な相談者に対し、それぞれの相談者の「よい未来」「今より広い可能性のある未来」を予想し、そこから逆算した、未来思考のケースワーク・面談が行えるよう、シートを開発し、毎月事例を出し合う研究会を行った。

期間：2021 年 7 月 14 日（火）～　月 1 回開催




さんの未来シート　作成　年　月　日　センター相談員

	今		目標
年			
月			
年齢			
計画			
家族			

一人ひとりの相談者さんに対して丁寧に未来を予想しプランニングするにとどまらず、シートを作成することで、目指すべき未来を相談者と支援者の間で共有値にしていくシート。

ⅲ）リンクサポート研究会

名古屋市若者・企業リンクサポートの相談者さんのクラスター分析を行い、それぞれのクラスター群に対する特徴とそれに対して有効な支援方法を模索する研究会を行った。

分類

	カテゴリ	ヒント＆支援方針
Ⅰ	リンクのやり方で手ごたえのある方	スピードアップの方法を探る
Ⅱ	生きるエネルギーや自己肯定力が低く、「働きたくない、生きていたくない」に振れがちな人	・キラリと光る「弱さ」をベースに、多様な職種×多様な働き方を模索 ・人間への信頼感が弱いため、包容力のある「人」につなげる ・こわかで担当すると長期化のおそれがあるため、ここをリンクの得意ゾーンとする
Ⅲ	主に認知のズレにより、人間関係のトラブルを起こしがちな方	・光る強さがあるために社会と喧嘩してきた人が多い ・年齢が高い人ほど攻撃的になりがち ・インテーク時に認知のズレがわかりにくく、のちに明らかになる場合も ・本人の世界観を大切にした支援
Ⅳ	生活面など、働く前の支援が必要な方	リファー先の開拓・地域での見守り

※ 今後、Ⅱのカテゴリの方に有効な、支援方法・ツール等の研究を深めていく

２ 相談･支援事業

◆名古屋市子ども・若者総合相談センター（名古屋市受託事業） ：平成 25 年 6 月～

ｉ）センター業務

０歳～概ね３９歳までの、名古屋市在住の方の相談に応じるワンストップセンターとしてあらゆる相談に応じる。問題解決のために「来所相談」にとどまらず、アウトリーチ、同行支援、ボランティアの活用、就労支援、支援機関の開拓連携（ケース会議）などの＜機能＞を駆使し、困りごとを抱える本人やご家族によりそうセンターとして、運営実施を行った。

令和元年度より名古屋市における子ども・若者指定支援機関に位置づけられ、相談窓口の増設（金山ブランチの新設）や支援機能の拡充（オープン型交流スペース・SNS 相談）に伴い、それまで相談に結びつかなかった若者にも出会うことができるようになった。

また、義務教育を終える子ども達への絶え間のない支援を目的として、学校連携コーディネーターを中心とした子ども応援委員会との連携が定着し、多くのバトンをつなぐことができた。学校連携のみならず、他機関への周知も進み、相談者実数、延べ相談件数とも前年度より大きく増加した。相談件数が増えたことで、支援のクオリティを落とさないよう、研修プログラムの充実を図り、スタッフの人材育成にもを継続して力を注いでいる。

さらには、新型コロナウィルスの流行に伴い、社会情勢や価値観が大きく転換する中、若者支援のあり方の模索や、より専門的な支援力と、柔軟な発想力とコーディネート力を併せ持つことが必要となってきている。

＜センター運営方針＞

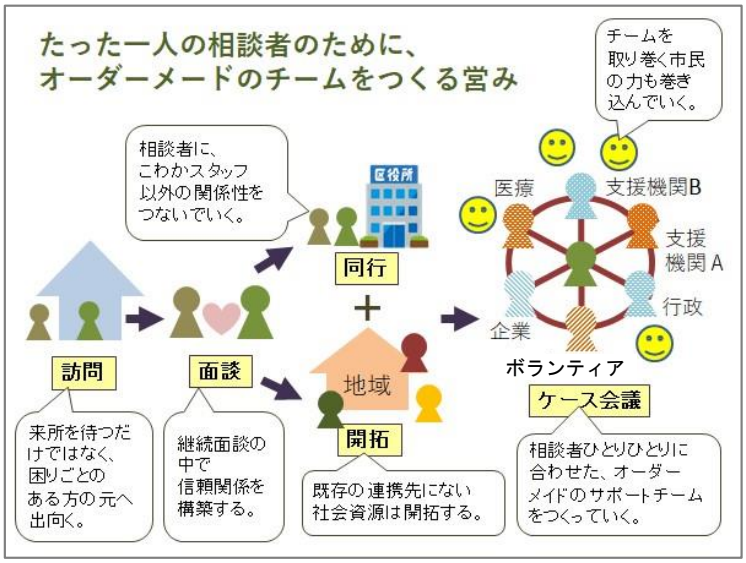
１．相談者一人ひとりに手間暇を惜しまない「よりそい型」支援

○ 本人を中心としたオーダーメイドの支援 ○ アウトリーチ・同行による支援

２．地域全体で若者を支える、ネットワーク力（地域力）の構築

○ ネットワークによる包摂的な課題解決

○「地域」と「子ども・若者総合相談センター」が育ちあう関係性の構築



令和3年度 名古屋市子ども・若者総合相談センター実績

◆相談実数
・相談センター：1,041人
・ライン相談：811人

◆のべ相談件数
・相談センター：10,123件
・ライン相談：3,142件

◆ 交流スペース
・利用者実数：976人
・のべ利用者数：6,885件

◆連携機関数：
357機関
（延べ機関数 7,116件）

◆ケース会議：902回

◆訪問支援（アウトリーチ）：
3,164件（571人）

◆ボランティア
（よりそいサポーター）稼働数：
1,247件
※打ち合わせ・研修・振り返りを含む

ⅱ）オープン型交流スペース“もいもい”　　期間：令和元年 10 月 30 日～

名古屋市子ども・若者総合相談センター金山ブランチに新設された交流スペース。
対象者：市内在住の 15 歳～概ね 39 歳までの方が利用できる。*
開所時間：日・祝を除く毎日、14 時～21 時の間開所。**
*市内在住の学生の紹介による、市外在住同級生はフレンド会員として利用可能。

・登録利用者数：261 人（延べ登録者 976 人）　延べ利用者数：13,858 人（R4 年 3 月末現在）
・ビジター利用：190 人（市外在住、年齢対象外、メンバー登録を検討中の方など）

令和 3 年度より、新規パート職員を 2 名採用したほか、よりそいサポーターの稼働を増やし、スタッフの人員体制の見直しを図った。

また地域との連携を模索し、新型コロナウィルス感染症拡大に伴いやむなく中止となったが、1 日のみ限定で地域に開放する“なつまつり”を企画したほか、さまざまな知見や生き方に直接触れる“〇〇なひとの話を聞く会（毎月開催）”のゲスト講師開拓にも力を入れ、地域で保護猫活動をしている方、地元ラジオ局の DJ の方、大須のフリーマガジ編集者などにご登壇いただくなど、地域とのつながりを模索した。

iii）LINE 相談　　令和元年 10 月 31 日～

ライン相談の概要

15 歳～概ね 39 歳までの方を対象として、（月）～（土）の 17：30～21：30 の間実施。（相談受付は21：00までに変更）

また、ゴールデンウィークと夏休みという長期休み明け前後には、時間を 1 時間延長して 17：00～22：00 の間相談を受け付け、不安定になりがちな時期の多くの若者に寄り添った。

若者にとってなじみのある、LINE 相談には以下の有効性が見えてきている。

①言葉で表現できない、漠然とした相談のタイミングの早期化。

②顔が見えない､会わなくていいからこそ、思い切って話せる安心感がある。

③相談を受ける側のメリットとして、LINE は顔も見えない､声も聞えないことから、画面のこちらでチームで知恵を出し合える。

④個別の支援が必要な若者を、SNS 上の関わりにとどめることなく、来所相談や居場所への来所を促すなど、顔の見える相談につなげることができる。

＜若者の指向性に合わせた機能の強化＞

四角い相談■　から、柔らかく丸い場所●　へ

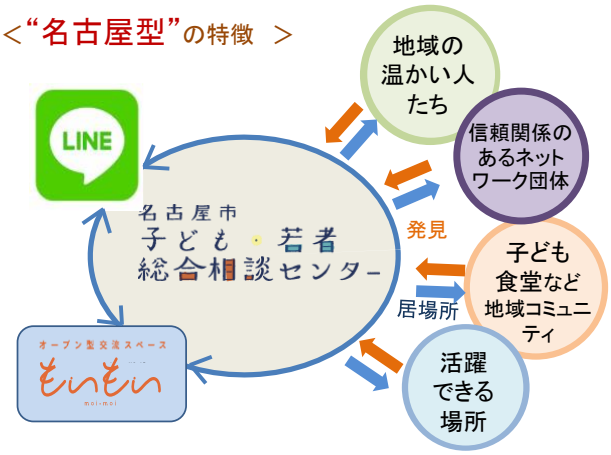
オープン型交流スペース　本人率100%

SNS相談「ライン相談」　本人率82%

	オープン型交流スペース	SNS相談「ライン相談」
発見機能	・青信号のふりのできる場所 ・世間話からスタートする相談 ・予約のいらない場所 など	・「電話」「対面」ストレスからの解放 ・漠然とした悩みの段階で相談OK ・毎日（繰り返し）来られる など
経験機能	・不特定多数の人との交流 ・他者に相談することの経験 ・文化的な経験 など	・愚痴を聞く「家族」の代替え機能 ・「悩みを言葉にすること」の経験 ・話すことで問題が整理される経験

潜在的な困りごとを抱えた本人からの相談を直接キャッチ！

オープン型交流スペースと LINE 相談という若者の指向性に合わせた機能の強化により、困り事を抱えた若者本人からの相談を、直接キャッチすることができるようになったと言える。



そして、この 2 つの機能が加わったことで、名古屋市の特徴的な取り組みになっている。

LINE 相談とオープン型交流スペースという相談のハードルの低いところから、センターの相談につなげる機能があること。

加えて、LINE 相談が外部の専門業者への委託ではなくセンター内部で運営していることにより、センターの相談につながってからでも、LINE 相談やオープン型交流スペースの利用ができ、センター本体と三つ巴のチームで、子ども若者を応援できること。

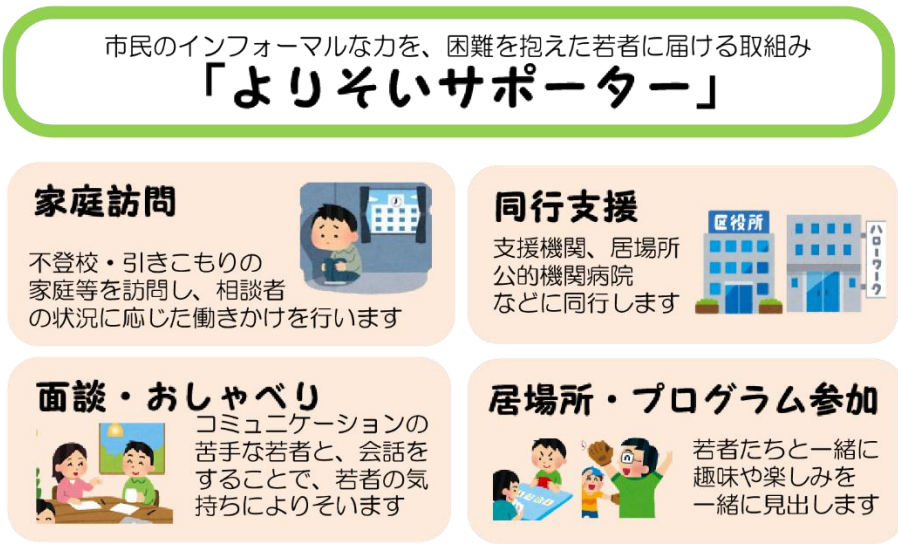
これは他都市にはないもので『名古屋型』と言える。

更には子ども食堂やプレーパークなどの、四角くない地域コミュニティの場とつながることにより、そこを拠り所としている、相談機関にはつながりにくい方達と、少しずつ出会えてきている。そして逆に、既にセンターにつながっている若者たちがボランティアなどとして活躍できる役立ちの場を提供して頂くなど、支援する側、される側という関係を越えて、包容力のある地域の方々の温かい見守りを受けられる居場所にもなっている事例が次々と生まれている。

ⅳ）子ども・若者総合相談センターボランティア『よりそいサポーター』

期間：平成 27 年 9 月～

子ども・若者の支援に取り組んだ経験のあるかたや、資格を有した方の他、若者支援に熱意・関心のある地域市民の方がたにボランティアとして、子ども・若者の支援を行っていただく。



※親密な他者として、よりそい応援してくれる人の存在※

＜令和 3 年度実績＞
◇ボランティア登録人数：211 人
◇稼働件数：1,247 件
◇稼動内容：
・引きこもり、不登校の方の家庭訪問・学習支援・居場所同行・支援機関同行
・センターでの傾聴（おしゃべり）・創作活動・遊び（スポーツ・ゲーム・囲碁居場所での支援）など

平成 27 年 4 月～平成 29 年 7 月に行った「名古屋市子ども・若者総合相談センターサテライト事業(名古屋市受託事業)」(名称「ちくさ 815」) で培った経験を活かして、居場所に行けない人のための、少人数での居場所プログラム「こわかランド」も継続して実施し、そこでもよりそいサポーターは活躍している。(スタディランド、クラフトランド、イラストランド、女子会、アニメ会など)

新たに令和 3 年度より、おしゃべり男子の会やギターランドなどが新設され、相談者お一人お一人によりそい、必要とされた居場所プログラムを柔軟に考え、実施した。

またよりそいサポーター向けの研修を兼ねた交流会も 6 回実施し、事例検討を中心とした交流会から実際の支援に繋がるなどのうごきも見られた。

専門家としてではなく、同じ地域で共に暮らす大人として、
一緒に悩み・考え・行動しています。

ｖ）連絡会等への参加

①熱田区子どもの居場所づくり関係者連絡会
日時：令和 4 年 1 月 11 日（火）15：00～16：30
場所：熱田区在宅サービスセンター研修室

②生活困窮者自立支援連絡会
日時：令和 4 年 3 月 24 日（木）10：00～12：00
場所：名古屋市役所西庁舎 12 階会議室

◆草の根ホッとライン（自主事業）　期間：令和 2 年 6 月～令和 3 年 12 月

令和 2 年度に全世界的な脅威となった新型コロナウィルスの感染拡大によってもたらされた経済活動の自粛によって、これまで既存の相談支援では補足しづらい人々が新たな困難層として可視化された。それに対応するため既存の名古屋市子ども・若者総合相談センター、名古屋市若者・企業リンクサポートで対応できない、40 歳以上、名古屋市外の相談者も対象として、生活全般の困りごとの電話相談を開始した。

本年度は、緊急事態宣言下においても令和 2 年度のように社会全体が停止してしまうようなことはなく、社会全体が with コロナに移行し、相談数自体が減少した。これは、8 月～9 月に感染者数が増加した時期でも同じ傾向であった。

その分、草の根ホッとラインで繋がった人とじっくり丁寧に関わるケースが多くなり、対応スタッフも固定化するようになった。これは本事業が当初想定していた比較的短いスパンで他機関等へつないでいくというあり方ではなくなってきたとも言える。

それらの状況を踏まえて、令和3年12月末をもって窓口の対応を終了した。

草の根ホッとライン　アクション内訳（令和3年5月～令和3年12月）

実相談および支援業務	電話相談件数	8件	ケース会議	1回
	専用フォームからの相談件数	2件	生活支援（現物支給）	0回
	実支援稼働数	15件	継続相談電話	6回
	家庭訪問	0回	継続メール件数	29回
相談者内訳	総相談者数	4人		
	地域別相談者数	名古屋市内3人、市外1人		
	年齢構成	20代1人、30代0人、40代2人、50代0人、60代以上1人、未回答0人		

３ 生活支援事業

ｉ）でこぼこ（障害福祉サービス）

期間：平成 25 年 7 月～

主として名古屋市内で、障害者総合支援法に基づく、行動援護、名古屋市の移動支援事業のサービスを提供しました。

人は違って当たり前、みんなが同じ社会で生きる生活者であって「できること、できないことのでこぼこを持った人の集まるところ」。そんな想いが『でこぼこ』という名前に込められています。

☆コロナ禍で感染症拡大を予防するため通所先が閉所になりやむを得ず自宅で過ごすことや余暇を控えることで外出する機会が減り、我慢を強いられている利用者さんが多くみえました。短い時間でも外での活動を希望される方や社会生活を送るうえで必要な外出には、感染症対策を徹底してサービスの提供をさせていただきました。

☆管理者の交代や退職される方もみえ、段階的に新体制へと移行しました。

新体制に移行するにあたり、規模の縮小を余儀なくされました。利用者さんには安心して他事業所へ移れるように引き継ぎの期間を長くとり関係機関や他事業所と連携を密にして対応させていただきました。

（令和 4 年 4 月 30 日時点での利用者数：行動援護９名、移動支援５名）

＜でこぼこの理念＞
全ての人が生きることってすてきだなと感じられるために…

１）**弱さも強さも**含めた全ての人の**可能性**を信じます
２）それぞれの人がふみだす**小さな一歩**をお手伝いします
３）利用者もでこぼこもかかわりあいのなかで
学び、育ちあいます。

＜千種区自立支援連絡協議会の参加＞

名古屋市内の各区において自立支援連絡協議会が運営されています。でこぼこの事務所がある千種区の自立支援連絡協議会の構成員として参加し、地域の課題等に取り組んでいます。

令和 3 年度は、対面での集まりは無く書面での参加のみでした。

ⅱ）猫の手バンク

期間：平成 25 年 5 月～

既存制度やどんな施策にも当てはまらない方々にボランティアが家庭訪問し、生活課題を解決する。当団体の「名古屋市子ども・若者総合相談センター」や「でこぼこ」、「名古屋市若者・企業リンクサポート」等の、支援事業ではカバーしきれない困りごとを抱えた方の相談に関して、猫の手バンクが稼働し対応した。

猫の手バンクのメニュー

通訳（同行・仲介）

◎病院同行、主治医訪問
◎家族との仲介
◎支援機関の同行と仲介　など

訪問・見守り

◎定期的な家庭訪問
◎引きこもりの方への訪問
◎継続的なカウンセリング

申請手続き

◎生活保護の申請手続き
◎滞納金（電気・ガス・電話）の支払手続き　など

身の回りのサポート

◎部屋の片づけ（ごみ屋敷等）
◎住まいの営繕 ◎買い物同行
◎食糧支援 ◎入退院手伝い　など

遊び・まなび

◎趣味や興味を一緒にする
◎お茶や食事を一緒にする
◎低所得家庭への学習支援
など

コミュニティへの参加

◎就労支援
◎社会資源の開拓
ボランティア先・居場所・企業・学習の機会　など

4　就労支援事業

◆名古屋市若者・企業リンクサポート事業（名古屋市受託事業）

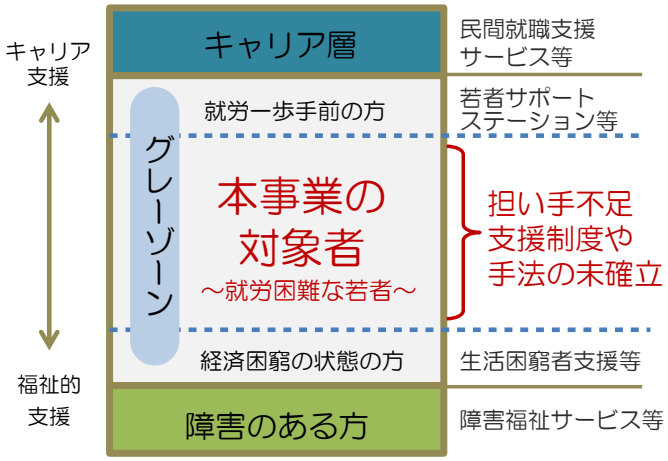
期間：令和元年 10 月 30 日～

若者と企業がお互いを大切と感じ、そこから「優しさ」が広がっていく社会を目指し実施。

『働くことが難しい』若者と、若手を『採用＆戦力化できず悩む企業』との仲介に立ち、双方の悩みを同時に解決する就労支援を行うことで、

「全ての若者が、社会にとって『なくてはならない人』となれる優しい社会」を目指す事業。

右図のように、今までの支援構造の中で空白になっていた就労困難な若者のゾーンにアプローチする新しい試みであり、試行錯誤の中、“就労困難な若者と企業が、潜在的な可能性を引き出し合う姿”を日常にしたいという思いでスタートを切った。



大方針：「仕事に人を合わせる」から『人に仕事を合わせる』へ

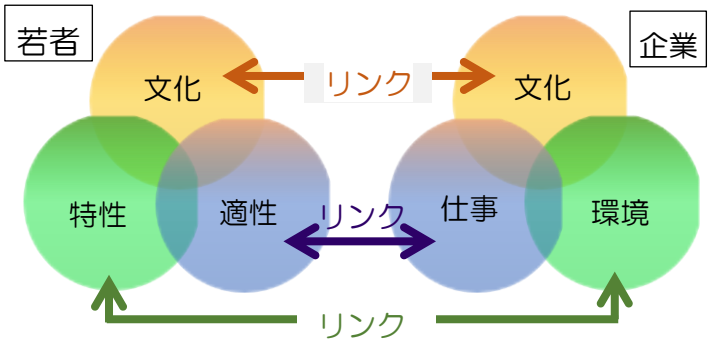
訓練等により仕事に若者を適応させていくのではなく、ひとり一人の持ち味や能力に＜仕事を合わせていく＞ことを、一番のポイントとしている。

方針１．若者と企業の相互成長を生み出す ＜３つのリンク＞ の実現

【リンク①】企業と若者のお互いの文化性（価値観）が近く、尊重しあうことができる

【リンク②】若者の適性を活かせる仕事が企業にあり、若者に提供ができる

【リンク③】若者の特性に合わせた環境調整が、企業の強みを生かした方法で実施できる



方針２．アウトリーチを軸にした、アセスメントと実支援の同時進行

若者・企業双方の丁寧なアセスメントを何より大切にすることを 2 つめの方針とした。

アセスメントの実施は、面談室での相談初期に留まらない。若者がまだ就労手前の段階の「連携支援」から、実際の「就労準備支援」、そして企業に出向いての「戦力化支援」まで、家庭訪問・同行・企業訪問と、アウトリーチを積極的に行い、継続的なアセスメントをしていく。

＜リンクサポートの特徴と実績＞

障害福祉サービスや他の支援機関の就労支援・プログラムには該当しないが、生きづらさや働きづらさ、経験の不足等を抱えた若者を対象に、企業見学・実習を経ながら環境を合わせていく、「環境支援型就労支援」を実施。

◆実績：令和３年４月～令和４年３月（12ヶ月）

相談者数		171 人
支援件数	本人面談	2,725 件
	企業見学	180 件
就労件数		76 人

◆就労先（例）

・お弁当屋で接客販売　・法律書籍の文字校正　・野菜の詰め作業
・ガムテーム製造工場・病院の診療補助兼ドライバー・警備会社
・がんセンターの研究補助・スーパーの食品販売・食品通販出荷作業
・介護事業所の清掃・療育の教育・広告会社・ソフトウェア会社の SE
・保育士・介護職（障害者雇用）など
→本人のアセスメントから見いだした、一人一人に合わせた多様な職種での就労が特長

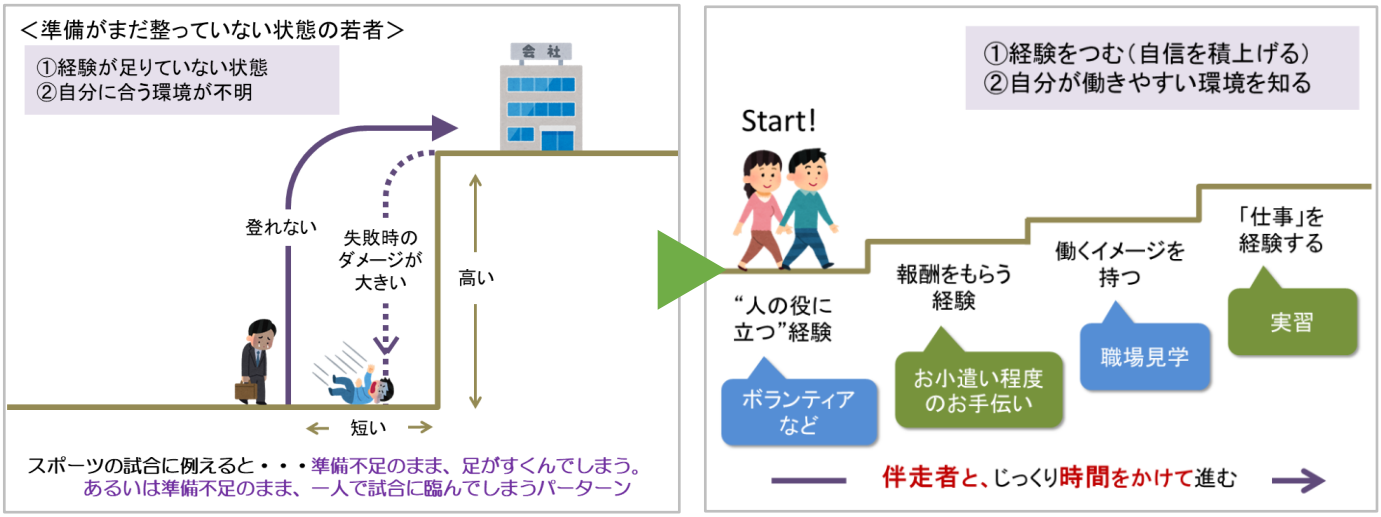
◆お仕事ゲットチャレンジ

リンクサポート事業に相談者の中で、全く仕事の経験がなかったり、誰かに働きかけて感謝された経験がなかったりするために、必要以上に「仕事すること」に高いハードルを感じているケースが多い。そこで、「お仕事ゲットチャレンジ」と称して、“ボランティア以上アルバイト未満”の経験をしてもらうことで、

働きかける＝具体的な誰かの役に立つ＝喜ばれる　➡　結果、報酬に繋がる

ということを体感してもらう取り組みを行っている。

最初は、オープン型交流スペース“もいもい”の清掃から始まった取り組みだったが、令和３年度は理解のある名古屋市内の企業との連携が始まったことが特筆に値する。令和２年度に行った中法人会でのセミナーから繋がったご縁が、名古屋の若者のための具体的な連携へと結実している。



５　地域コミュニティ事業・ネットワーク創出事業

ｉ）できることもちよりワークショップ

重複した困難を抱えた相談者の事例を参加者全員で共有し、それに対してひとりひとりの「できること」を書き出して、みんなで共有する。「１人で支えられること、１０人で支えられること、１００人で支えられること」の差を知ることにより、多分野連携の可能性や有効性を体験するワークショップの普及実施を行っている。

令和 3 年度は、各自治体や厚生労働省研修の一環などで複数回の実施となった。

①東京都立川市：立川市子ども・若者自立支援ネットワーク事業
令和 3 年度 子ども・若者自立支援ネットワーク事業支援者研修会
日程：2021 年 7 月 9 日（金）13 時 30 分～16 時 30 分
場所：東京都立川市役所 302 会議室
参加者：子ども・若者自立支援ネットワーク事業支援者研修会参加者

②愛知県豊田市：豊田市社会福祉協議会
井郷地区コミュニティ会議福祉委員会　講演会「今、なぜ地域に居場所が必要なのか」
日程：2021 年 11 月 27 日(土) 13 時 30 分～16 時 30 分
場所：豊田市猿投コミュニティーセンター2 階
参加者：子ども・若者自立支援ネットワーク事業支援者研修会参加者

③三重県名張市：名張市地域包括支援センター
「かかりつけ医と専門医、保険者の協働による予防健康づくり事業」（令和 3 年度名張市厚生労働省保健局モデル事業）名張市立病院との合同研修
日程：2021 年 11 月 28 日(日) 13 時 30 分～16 時 00 分
場所：名張市立看護専門学校　講堂
参加者：研修参加者

④厚生労働省
「重層的支援体制事業　人材養成研修　参加支援事業者向け　ライブ研修」修
日程：2021 年 12 月 15 日(水) 13 時 00 分～17 時 00 分
場所：オンライン
参加者：研修参加者

⑤三重県名張市：名張市地域包括支援センター
「かかりつけ医と専門医、保険者の協働による予防健康づくり事業」（令和 3 年度名張市厚生労働省保健局モデル事業）地域住民対象のリンクワーカー研修
日程：2022 年 1 月 16 日(日) 14 時 00 分～16 時 00 分
場所：オンライン
参加者：研修参加者

⑥滋賀県米原市：米原市社会福祉協議会　重層的支援体制整備事業研修会
日程：2022 年 3 月 1 日(火) 13 時 30 分～16 時 00 分
場所：米原市役所
参加者：研修参加者

ⅱ）社会資源 MAP ワークショップ

また近年社会資源 MAP への関心度が高く、今年度は宮城県登米市ワーカーズコープ様の依頼で、社会資源 MAP のワークショップを開発し、実施した。

①宮城県登米市：特定非営利活動法人ワーカーズコープ登米事業事務所
日程：2022 年 2 月 28 日（月）13 時 00 分～16 時 00 分
場所：オンライン
参加者：研修会参加者

６　普及･社会活動事業

ｉ）イベント開催

草の根ささえあいプロジェクト設立１０周年記念イベント

「誰もが自分らしくいられる優しい社会を目指して～これからの共生社会を考える～」

本年度は当法人が任意団体として発足してから、10 年目の節目の年となった。そこで、これまでの 10 年を振り返り、これ先の 10 年を考えるためのイベントを開催した。

以下、創立メンバーの１人である永井文子（法人理事、名古屋市子ども・若者総合相談センター　センター長）が、当イベントを振り返り本報告書へ寄稿する。

2011 年 4 月 23 日、第一回「穴を見つける会」と題して産声をあげた小さな小さな集まりだった私たちが、10 年の節目を迎えた。

想いばかりが先行し、仕事が終わった夜や休日に集まっては議論を重ね、全国の先駆者の方々や当事者の方々にインタビューに駆け回っては、調査報告書を作り、イベントを開催したり、自分達が学びたいが為に勉強会を開催したり。ひとつひとつが手づくりで、丁寧に積み重ねるが故に、余裕をもって事を迎えたことは一度もなく、ギリギリまでドタバタ走り回ってばかりだった。その間、実に沢山の方々にお世話になり、見守られてきた。仲間の顔ぶれは随分入れ替わり、今や従業員として事業に関わるスタッフが約 50 名にも上る。スタッフの中だけでも多様性が拡がり、より多くのできることが持ち寄れるようになった。想像もしていなかったような景色が今、目の前に広がっている。随分遠くに来たものだ。

そんな私たちが迎えた節目の 10 年に相応しい、あくまでも手作りの、旧知の皆様そしてまだ見ぬ方々と一緒に「これから」を考えるイベント

『誰もが自分らしくいられる優しい社会を目指して～これからの地域共生を考える～』を開催した。

ウィンクあいちの 5 部屋を使い、パネルディスカッション用、講演 A、講演 B 用にオンライン会場を設営、また「草の根の歴史部屋」も設けて、思い出深い品物や 10 年を書き綴った年表を展示した。

冒頭、代表の渡辺より「リラックスして、ではなく、手に汗握って考える一日にしてほしい」というあいさつで開始。

午前のパネルディスカッションでは、パネリストの方々より「優しさに対して優しくなった」「”ちゃんとしてるイデオロギー”は変わらず人々を苦しめている」「”優しさ”や”コロナ”のようなわかりやすい言葉が人と人をつなげる”のりしろ”になる」「”のびしろ”より”のりしろ”」などの名言が飛び出した。

また渡辺からは、きれいごとを言い続けていくことの重要性と「絶望があるからこそ希望が見出せる」というキーワードも残された。

午後の講演の各氏は、スタッフが是非お話を聴きたい！と、突撃でお願いしたにも関わらず、快くお引受け下さった心ある方々。そのお話は、どれも背筋が伸びるような内容ばかりで、スタッフのみならず、終了後の参加者のアンケートは非常に高評価だった。

良いお話を聴いて勉強になりました！ではなく、もやもやグルグルが残るイベント。これこそ草の根ささえあいプロジェクトの原点とも言える。マイルストーンとなったこのイベント。次の 10 年後はどんな景色が見えていることだろう？

・イベント概要
開催：令和 4 年 2 月 23 日（祝）　開場：ウィンクあいち　開催形式：来場＋オンライン

・プログラム
第１部　9：30～12：30
パネルディスカッション「これまでの 10 年とこれからの未来を考える」

パネリスト	
パネリスト氏名	所属
野々村光子 氏	滋賀県東近江圏域働き・暮らし応援センター“Tekito-”センター長
堀田聰子氏	慶應義塾大学大学院健康マネジメント研究科 教授
湯浅誠 氏	社会活動家／東京大学先端科学技術研究センター 特任教授／全国こども食堂支援センター・むすびえ 理事長
渡辺ゆりか	一般社団法人草の根ささえあいプロジェクト 代表理事
コーディネーター	
鈴木淳（カイパパ）氏	草の根ささえあいプロジェクト創設時メンバー

第２部　13：00～17：50
ゲスト講師による講義

テーマ	講師	所属
トラウマと共に生きる	森田ゆり 氏	エンパワメント・センター主宰/文筆家
希望のまち ”信じられる”地域とは	奥田知志 氏	認定特定非営利活動法人抱樸 理事長 日本バプテスト連盟東八幡キリスト教会牧師
ジェンダー規範と暴力性について～虐待してしまった男親の声を聞く～	中村正 氏	立命館大学 産業社会学部/人間科学研究科 教授
LGBTQ をカミングアウトした側とされた側の経験からみた多様性	特定非営利活動法人 ASTA の皆さま	同左
自傷行為や摂食障害、希死念慮等がある若者とどのようにかかわるか	松本俊彦 氏	国立精神・神経医療研究センター
役割や生きがいを大切にした、ケアとまちづくりの実践	守本陽一 氏	一般社団法人ケアと暮らしの編集社代表理事・家庭医

・参加者数

新型コロナウィルスまん延防止等重点措置期間中の開催となったため、会場での参加人数を絞ったため、来場が 31 人、オンライン参加 約 450 名リアルタイムで参加した。

また、各プログラムの見逃し配信を Youtube で行った

トータルの視聴回数は、1389 回で、各プログラム平均は約 230 回となった。

ⅱ）国・地方自治体等より講師・研修等の依頼

◆渡辺講演・講師

厚生労働省

・第 8 回生活困窮者自立支援全国研究交流大会　講師

令和 3 年 11 月 14 日　10：00～12：00（オンライン開催）

・重層的支援体制構築推進人材養成研修・広報啓発事業　参加支援事業者向け研修　講師

オンラインできることもちよりワークショップ

令和 3 年 12 月 15 日　13:00-17：00（オンライン開催）

30 の自治体が参加

・重層的支援体制構築推進人材養成研修・広報啓発事業　ワーキンググループ委員

・厚労省自立相談支援事業従事者養成研修テキスト執筆

内閣府

・内閣府アウトリーチ（訪問支援）研修

令和 4 年 2 月 1 日　15:45～18:30（オンライン開催）

「子ども・若者総合相談センターのオーダーメイド型伴走支援 と

新しい時代の地域連携の在り方」～名古屋市子ども・若者総合相談センター報告～

総務省
・不登校・ひきこもりの子供支援に関する政策評価に係る研究会　委員

その他講演等
・大田区青少年問題協議会（内閣府子ども・若者総合相談センター強化推進事業）
「コロナ禍における子ども・若者への伴奏支援と地域連携のあり方について」講師
～名古屋市子ども・若者総合相談センター報告～
令和3年11月9日　14:00～16:00（オンライン開催）

・生活困窮者自立支全国ネットワーク　東海・北陸ブロック研修　報告者
「コロナ禍での困窮者支援」取り組み紹介
令和3年12月17日

◆永井講演・登壇
・統合的アプローチ年次大会　～名古屋市子ども・若者総合相談センターについて～
日時・2021年5月29日（土）　オンライン開催

・愛知県子ども・若者ネットワーク会議　～名古屋市子ども・若者総合相談センターの取り組み　～日時・2022年1月18日（火）　オンライン開催

・名古屋市里親家庭支援センター職員研修　～名古屋市子ども・若者総合相談センターの取り組み　～日時・2022年2月18日（金）場所：慈友学園

・名古屋市子ども適応相談センター職員研修　～名古屋市子ども・若者総合相談センターの取り組み　～日時・2022年4月6日（水）場所：名古屋市子ども適応相談センター鶴舞サテライト

◆取材関係
・名古屋市子ども・若者総合相談センターが、中日新聞で1/30に「家庭不和若者むしばむ“児童生徒の自殺増加コロナ禍失う居場所”」というタイトルで取材協力、掲載されました。

・オープン型交流スペースもいもいが、名古屋市公式noteにて5/9(月)に、『若者の「したい」をかなえる場所“もいもい”』として紹介されました。

・オープン型交流スペースもいもいが、中京テレビの名古屋市市政情報番「林修のナゴヤかるた」にて5/15(日)に紹介されました。

以上